

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

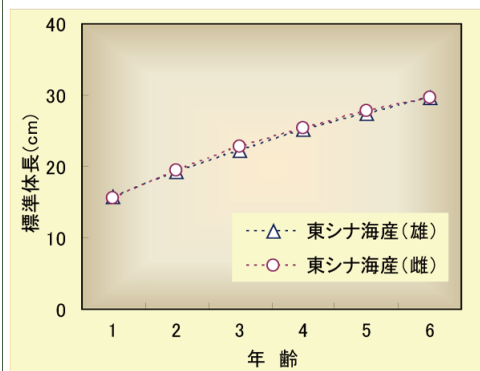
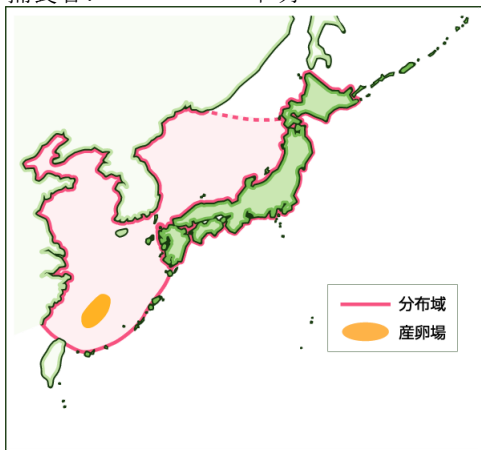
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳程度
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5～7月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
索餌期・索餌場: 8月～翌4月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
食性: カイアシ類、ヒドロ虫類、端脚類、オキアミ類、珪藻類、紅藻類
捕食者: 不明

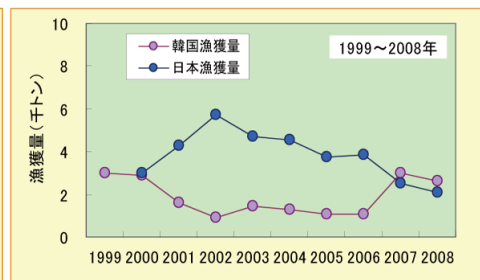
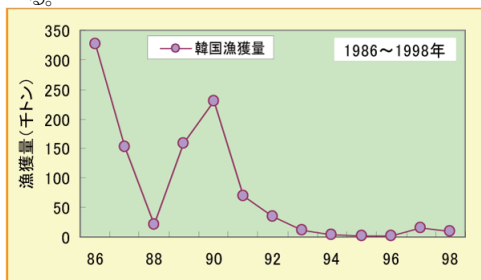


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網や刺網等によって漁獲される。

漁獲の動向

我が国では1960年代後半から各地に多量に出現するようになったとされる。近年の漁獲量はやや減少傾向にあり2008年の我が国沿岸域(九州西岸～日本海北部沿岸)と東シナ海での漁獲量は20百トン程度と推定される。東シナ海において最盛期(1986年)にはカワハギ類として中国が40万トン(FAO)、韓国が30万トン以上(「漁業生産統計」韓国統計庁)の漁獲があったが、その後漁獲量は減少して中国は20万トン前後、韓国は1千トン～3千トンで横ばいである。



資源評価法

漁獲量の情報を収集し、経年変動傾向を検討した。また東シナ海の沖合において着底トロールによる漁獲試験を行い、現存量を評価した(2000～2009年5～6月)。

資源状態

我が国の漁獲量は、水準は不明だが動向はやや減少傾向にある。東シナ海の漁獲の主体をなす中国のカワハギ類の漁獲量は、1980年代の半分程度で動向は横ばいであるが、本種の近似種の混獲割合が不明である。本種の比率が高いと考えられる韓国のカワハギ類の漁獲量は、最盛期(1980年代)と比べて減少が著しい。以上のことを勘案して、水準は低位、動向は減少と判断した。



管理方策

資源が低位水準で、動向が減少であることから漁獲量を削減することが必要である。したがって、過去3年の平均漁獲量よりも削減したほうがよい。ただし、我が国の漁獲統計は整備されておらず、各県沿岸域や以西底びき網・沖合底びき網漁業で水揚げされた量に対する管理とする。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	20百トン	0.8Cave3-yr	—	—
ABCTarget	16百トン	0.8・0.8Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 我が国の漁獲量はやや減少傾向
- 中国のカワハギ類の漁獲量は最盛期の半分程度で動向は横ばい
- 韓国のカワハギ類の漁獲量は低位水準で動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲量よりも削減することが適当である

平成21年10月23日更新

資源評価は毎年更新されます。